



ビジネスにおける勝者の思考法

～勝つリーダー、負けるリーダー～

スポーツジャーナリスト

二宮 清純 氏

昨年の12月2日（水）、スポーツジャーナリストの二宮清純氏に「ビジネスにおける勝者の思考法」と題して、オンラインでのご講演をいただきました。今回はその講演内容をご紹介します。

77

主催：公益財団法人 七十七ビジネス振興財団

共催：七十七リサーチ&コンサルティング株式会社

【オンライン講演会】

日時：2020年12月2日（水）13：30～15：00

講師：二宮 清純 氏（スポーツジャーナリスト）

演題：「ビジネスにおける勝者の思考法」

～勝つリーダー負けるリーダー～



2021年のスポーツ界最大の課題はオリンピック・パラリンピックの開催ですが、予断を許しません。問題は世界の新型コロナウイルスの感染状況です。チケットは900億円程度が販売されています。購入者の8割は日本人ですが、観客は日本人だけとしても約700億円の収入となります。国民の間には外国人の流入には懸念の声もあります。無観客からフルハウスの開催まで、様々な選択肢の間で調整が図られていくでしょう。

さて、今回はオリンピックはもちろんですが、よりパラリンピックの方が重要ではないかと思っています。私がパラリンピックに興味を持つようになった

たきっかけは、あるパラアスリートとの出会いです。彼の名前は河合純一さん。パラリンピック競泳で21個のメダルを持つレジェンドです。河合さんは若い日に視力を失いました。河合さんは私に、「あなたや家族の方で10年、20年後に視力を失う人が出ないとは限りません。私たち障がい者は健常者の未来です」と言われ、高齢社会と障がい者スポーツは極めて親和性が高いのだということを実感しました。そして初めてオリンピックとパラリンピックが地続きなのだと感じました。

1964年の東京オリンピックのコンセプトは「成長」でしたが、今回のコンセプトは「成熟」ではな

いでしょうか。今回の東京オリパラは、スポーツが健康寿命を延ばすこと、そして暮らしやすい東京を世界に示す機会です。

さて、ここからはリーダーのお話をします。小出義雄さんは女子マラソンのメダリストを育てた名伯楽です。高橋尚子さん、有森裕子さん、鈴木博美さんなどを輩出しています。小出門下にXさん（仮にXさんと呼びます）がおります。Xさんは出場したマラソンで、小出さんが事前に注意を与えた地点で転んでしまいました。小出さんは、試合後、自分が悪かったと彼女に謝りました。なぜか。小出さんはXさんに危険箇所は伝達したが、彼女が理解したことまでは確認しなかったからです。「伝えた伝わったは違う」とリーダーの独りよがり自ら戒めたのです。

2019年ラグビーワールドカップで日本代表はベスト8の快挙を成し遂げました。その前大会の2015年イングランド大会で日本代表が南アフリカに勝ったのは奇跡であり、その立役者はエディー・ジョーンズ前ヘッドコーチでした。エディー・ジョーンズの改革の一つに、後半に出場する選手を今までのような「補欠」や「リザーブ」という呼び方ではなく、試合の流れを変える「インパクトプレイヤー」と名付けたことが大きかった。これによってリザーブの選手も自信を深め、自分の役割を見つけてチームの力となることができた。その結果、日本代表は「ワンチーム」となり、南アフリカに勝つことができたのです。そして、それはジェイミー・ジャパンにも受け継がれました。

「ワンチーム」の定義には「居場所」「役割」「出番」があると考えます。「一億総活躍社会」においてもこの3つの定義づけをし、モチベーションを上

げるべきです。同様に、企業においても正社員、非正規社員と名称で区別するのはやめる時代ではないでしょうか。

スポーツ界で、私が最も尊敬する人のひとりには、Jリーグ初代チェアマンの川淵三郎さんです。Jリーグ発足以前のサッカーは、日本代表戦でも客が入らず人気なかったが、今では手に入れるのが難しいプラチナチケットになりました。リーダーが変われば組織が変わる。川淵さんはサッカーのプロ化にあたり、地域密着の理念を取り入れ、地域の産業振興のキラーコンテンツ化することを掲げました。「時期尚早」「前例がない」といった反対を乗り越え、果敢に挑戦して成し遂げたのです。

21世紀のリーダーには4つの資質が必要だと考えます。理念を貫く「Passion」、使命という「Mission」、背中で引っ張っていく「Action」、先を見通して全体を構想する「Vision」です。この4つの資質を持つ者こそが、閉塞状況を打開し、勝ち残ることができるリーダーになれるのではないかと考えます。

プロ野球オリックスの元監督・仰木彬さんは、野茂英雄選手やイチロー選手の育ての親で、90年代以降、彼の門下生からはメジャーリーガーが多く誕生しました。仰木さんが他の指導者と違うのは「人の才能の形を認める」ということ。野茂選手のトルネード、イチロー選手の振り子打法を認めた功績は大きい。人を育てるキーワードは『適材・適所・適時』の3つであり、特に『適時』が大事だと思います。人材にも旬があり、早すぎても遅すぎてもだめです。部下に「いつチャンスを与えるか」「いつ勝負させるか」——それを見極める眼力がリーダーに求められるのではないのでしょうか。

二宮 清純(にのみや せいじゅん)氏 プロフィール

愛媛県出身。スポーツ紙や流通紙の記者を経て、フリーのスポーツジャーナリストとして独立。2000年、株式会社スポーツコミュニケーションズを設立し、代表取締役就任。オリンピック、サッカーW杯、メジャーリーグ、ボクシング世界戦など、国内外で幅広い取材活動を展開中。明治大学大学院博士前期課程修了。広島大学特別招聘教授、大正大学地域構想研究所客員教授、認定NPO法人健康都市活動支援機構理事を務める。またテレビのスポーツニュースや、報道番組のコメンテーター、講演活動と幅広く活躍中。